

菘姫伝説

時は建武の頃。京の都に住む菘姫が不治の病にかかり、ある夜不動明王が夢に現れ「都より東北方へ五百本目の川岸にある出湯に浸れば、快療疑い無し」と告げました。姫は幾多の困難の上、ついに五百本目の川にたどり着きそこに湧く出湯で難病を治し京へ帰ったと伝えられております。それ以来、温泉街を流れる川は五百川と呼ばれ、美肌の湯として広く皆様に親しまれています。